

・中国で鳥インフルエンザ A(H7N9)の流行が再燃

中国沿岸部で2月に入り鳥インフルエンザA(H7N9)の患者が増加しています。中国では2013年から2月の春節前後にこの病気の患者が増加しており、今季は2月上旬までに114人の患者(致死率24%)が確認されました(Europe CDC 2015-2-12)。この数は昨季(319人)より少なくなっていますが、これから患者数が増加する可能性もあります。今季は広東省や福建省で患者発生が多く、ほとんどの患者は発病前に生きた家禽との接触がありました(WHO GAR 2015-2-8)。なお、1月末にカナダのバンクーバーで、中国旅行から帰国したカナダ人夫婦がH7N9による急性呼吸器症状を起こしていたことが明らかになりました(WHO GAR 2015-2-1)。二人とも重症化することなく回復しています。

・北半球での季節性インフルエンザ流行

北半球での季節性インフルエンザの流行は2月中旬になり鎮静化の傾向にあります(WHO influenza update 2015-2-9)。今季は欧米や日本などでA香港型(H3N2)が大流行し、ワクチンが効かないタイプのウイルスが数多く検出されました。一方、インド北部ではA(H1N1)型の流行がみられています。このウイルスは2009年に流行した新型インフルエンザのウイルスが季節性として定着したもので、病原性の高いウイルスではありません。

・中東でのMERS流行

サウジアラビアでは今年もMERSの患者発生が続いており、2月中旬までに患者数は100人以上に達しています(ミネソタ大学感染症センター 2015-2-20)。この数は昨年同期の約2倍で、患者の多くはラクダとの接触や病院内で感染した模様です。昨年は4月に患者数が大きく増加しており、今後も警戒が必要です。

・西アフリカのエボラ熱の流行は鎮静化

西アフリカで流行しているエボラ熱の流行は2月になり鎮静化の傾向にあります。2月中旬までの患者数は23,253人で、うち9,380人が死亡しました(WHO Global Alert and Response 2015-2-18)。最初に流行が発生したギニアでも患者数は少なくなっていますが、東部のコートジボアール国境付近で新たな流行が確認されており、引き続き警戒が必要です。

・米国での麻疹流行

米国でカリフォルニア州を中心に麻疹の流行が発生しており、1月から2月上旬までに121人の患者が確認されました(WHO GAR 2015-2-13)。今回の流行は、ロサンゼルス近郊のディズニールランドで12月におきた集団感染が全米に波及したものです。患者からはフィリピンで流行しているB3

型のウイルスが分離されています。

・ブラジル・サンパウロでのデング熱流行

ブラジルのサンパウロでは 1 月にデング熱患者が増加し、緊急事態警報が発出されました(外務省海外安全ホームページ 2015-2-20)。1 月の患者数は 1 万 7,000 人にのぼっており、昨年同期の患者数(2,000 人)より大幅に増加しています。サンパウロでは 1 月から 2 月にかけて雨季になるため、患者数はさらに増えることが予想されます。

・中南米でチクングニア熱流行がさらに拡大

中南米では昨年、チクングニア熱の大流行が発生しましたが、今年も流行が続いています。2 月中旬までの累積患者数は 117 万人に達しており、ドミニカ(53 万人)、コロンビア(14 万人)、エルサルバドル(13 万人)で患者数が多くなっています(Pan American Health Organization 2015-2-13)。米国でも輸入例が 2000 人以上確認されており、フロリダ州では国内感染例が発生しました。